

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 『宗安小歌集』総索引  |
| Sub Title        |   |
| Author           | 菅野, 扶美(Sugano, Fumi)  |
| Publisher        | 慶應義塾大学国文学研究室  |
| Publication year | 1983  |
| Jtitle           | 三田國文 No.1 (1983. 1) ,p.73- 106  |
| JaLC DOI         | 10.14991/002.19830100-0073  |
| Abstract         |   |
| Notes            |   |
| Genre            | Departmental Bulletin Paper   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-19830100-0073">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-19830100-0073</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 『宗安小歌集』総索引

菅野扶美

## 凡例

### 〈本文〉

1 現在原本の所在が不明なので笹野堅氏所蔵本による同氏編『室町時代小歌集』（萬葉閣版31）に収められた玻璃版によった。なお40番については実践女子大学常磐松文庫蔵『宗安小歌集』（『実践女子大学文芸資料研究所年報』第一号、82竹本幹夫）の本文を採用した。常磐松文庫蔵本は十九首のみの異本であるが、40番以外の笹野本との校異は、補註末尾に一括して示した。

2 できるだけ原本に忠実な翻刻を本文として掲げた。よって、底本通りの漢字を記し、私に漢字をあてたものにはふり仮名をつけた。仮名遣い、おどり字は底本のまま、濁点については私に加えた。なお序と奥書は除いた。

3 各歌の頭につけた通し番号は、浅野建二『室町時代小歌集』（新註国文学叢書）に依る。

合は「参照（↓）」の形で示した。  
（例）

なさけ ↓ そら一心

何とも ↓ 「なに」「と」「も」

あかつき ↓ 暁寺

1 索引は語彙索引と漢字索引とより成る。

2 語彙索引は『宗安小歌集』の本文に用いられている歌詞のすべての語を、五十音順に収載したものである。

6 両様に読み得るものは、一方を見出し語にとり、他方を参照項目として掲げた。

（例）ひとよ（一夜） ↓ 「いちや」

7 懸ことばは、次のように示した。

（例）「伏見」82に「伏す」意が懸っている場合

伏す ↓（懸82）

4 見出し語は便宜上、歴史的仮名遣に統一し、漢字を括弧に入れてあてた。その漢字は必ずしも本文表記と一致しない。濁点についても同じである。

8 句の切り方、読みの清濁などにより意味が変化する場合、一方を別解として参考にあげた。なおその際参考にした文献は以下のもの

5 見出し語は原則として単語を掲げたが、結合度が高いと認められる連語は、連続した形を掲げた。ただし各下位部及び別な読みからも

。浅野建二『室町時代小歌集』（新註国文学叢書）

も検索し得るように項目をたてたが、この場

。小笠原恭子『宗安小歌集』私解」一・二・三（『武蔵大学人文学会雑誌』八・四、九、一・二、十・二・三）

。北川忠彦「宗安小歌集私註」上・中・下（『論究日本文学』第26、27、28号）

（脱稿後に北川忠彦『宗安小歌集』（『新潮古典集成』）が出版されたが、これは右記北川論文に則るものと考える。）

9 解釈に問題があるものは\*点を施し、補註として102頁に解説を付した。

10 おどり字の反復の範囲は、前記浅野『室町時代小歌集』本文を基本とし、くり返される言葉を含む歌謡番号を<>で囲い、おどり字による読みであることを示した。

（例）「5 夢よ〜」については、

夢 5<5>

11 「付録」はおどり字を含む歌謡番号一覧である。なお「〜」Aは、「〜」の性質に近く、くり返すことで単語になるもの及び仮名二字のくり返しを集め、Bはそれ以外、主に文を作るものを集めた。

12 漢字索引は底本に用いられた漢字すべてを収載したものであり、添記された漢字も含む。

13 配列は、その漢字の音読み（主に漢音）を五十音順に並べた。同音のものは大漢和辞典

に基き、画数順に並べた。

14 同訓異字については、参照（↓）の形で示した。

（例）川 ↓ 河

〔注記〕

北川忠彦『閑吟集・宗安小歌集』（『新潮古典集成53』）に、本索引を適用する場合は、歌謡番号143以後のものは、その番号から一番差し引いたものがあてはまる。

### 本文

- 1 神ぞしるらん我中は千世萬よとちぎり候
- 2 神むつかしくおほすらん叶はぬ恋を祈れば
- 3 梅と寝うとて鶯がなく北野に神にしかられうとて
- 4 夢には来てお寝れそれに浮名はよもた〜じ
- 5 夢よ〜恋しき人な見せそゆめうつ〜に逢ふとみてさむればもとの独り寝
- 6 うらみつくれば恨ない中もうらみらるうらみつけじのうら〜みよの
- 7 逢ふて立つ名は立つ名かなふなき名たつこそ立つ名なれ
- 8 霧か霞歎ぐれか知らぬ山路か人の迷ふは
- 9 千夜も一夜もかへるあしたは憂いものを
- 10 訪へば千里もとをからじとはねば咫尺も千

里よの  
11 二人間くとも憂かるべし月斜窓に入暁寺のかね

12 世中は殿よの笹の葉の上のさら〜さつとふるよの

13 詮ないおもひをしがの浦波よる人に憂かるもの

14 志賀の浦波よる唐崎のまつよの

15 訪へば訪ふとてふらる〜訪はねば恨てふらる〜

16 厭はる〜身となりはてはせめて我身の咎も身の咎も身の咎もがな

17 涙の河のはやきとて堰き止むる逢より外のしがらみはあらじな

18 しのだの森のうらみ葛の葉

19 独り寝になき候よ千鳥も

20 君ゆへに嵯峨野と奥なるいや恋が淵にしづまばいやそれまでよの

21 恨こひしやうらみしほどは来しものを

22 霜枯の葛のうら葉の蛸うらみてはなき恨てぞ暗

23 身はやりたし詮かたな通ふ心の物をいへかし

24 情ならでたのまぬ身は数ならず

25 そと締めて給ふれなふ手跡の終に表はる〜

26 中／＼の竹のませ垣結い初めて折／＼人の  
恋しかるらん

27 夢よ／＼逢となみせそ夢はさむるに

28 月に鳴き候あの野に鹿がたゝ一聲

29 かへる後かげを見んとしたれば霧がの朝霧

30 袖を控へて又よといへば泪にかきくれて兎  
も角も

31 あはせけん人こそ憂けれ焼物ゝ獨ふせこに  
燻ゆる思を

32 木幡山路に行暮て月を伏見の草枕

33 独り寝し物憂やなふたり寝寝初て憂やな独  
り寝

34 人のなさけのありし時など獨ねを習はざる  
らう

35 人は兎もいへ角もいへ立ちし其名がかへら  
ばや

36 思ひ切りしに又見てよの中／＼つらきは人  
のおもかけ

37 人は恋し／＼名は漏れじとすこれかや恋の重  
荷成らん

38 月を踏んでは世の常候よ風雨の来こそ尽期  
よの

39 恨み候まじ中／＼に身は数ならぬ

40 衣／＼(むく)の枕にはら／＼ほろ／＼と

別を慕ふ涙よの／＼

41 我が待たぬ程にや人の来ざるらう

42 雲のはてまで波の底までとても立たつ名に

43 雨はさながら便りあり砂潤ほふて沓にこゑ  
なし／＼

44 物もおしやらぬ知らずや何の恨みに

45 色／＼の草の名はおほけれどなんぞ忘れ草  
はなふ

46 梅は匂ひよ花はくれないなる人は心

47 思ひは是草根ぎれば又生じ又生ず

48 衣にかきほの八重葎かゝる所にも住まるゝ  
か

49 すまば都よ捨てば都あぢぎなの世や

50 鳴る瀬も候音無川とて鳴らぬ瀬も候

51 いと／＼名の立つ不破の関なんぞ嵐のそよ  
／＼と

52 曉通へば月の戻り足に袴の裾は露にしほと  
ぬれて袖はそなた涙よの

53 待つ人は来もせで月は出でたよの

54 やもめ鳥の羨むもあはれ鴛鴦ひとり宿せず

55 會者定離ぞと聞く時は逢ふてなにしよぞ別  
れうには

56 せめて時雨よかし独り板屋の寂しきに

57 笹の葉にあられふるなりさら／＼更に  
獨はねられぬ

58 独り寝も好やあかつきの別れ思へば

59 獨も寝けるものをねられる物を慣はしよ  
の身は慣はしの物か

60 あぢぎないものぢや忍ばいで添はばや

61 茂れまつ山茂らうにや木陰で茂れ松山

62 ぬれぬ前こそ露をも厭へぬれて後には兎も  
角も

63 人の濡れ衣きた時雨曇なければ晴るゝよの  
舟

64 身は宇治の柴舟柴舟ならば思ひこりつめ柴

65 思ひきりしに又見えて肝を煎らすゝ

66 身は浮舟うかれ候引くにまかせて寄るぞう  
れしぎ

67 花を嵐の誘はぬ前いざおりやれ花をみ吉野

68 花が見たくばみ吉野へおりやれなふ吉野ゝ  
花は今がさかりぢや

69 吾恋は水に燃えたつ螢／＼物言はで笑しの  
螢

70 わが恋は水にふる雪しろうは言はじ消ゆる  
とも

71 尺期の君は来ぬもよい會者は定離の世の習

72 さうないこそ命よ情のおりやらうには生き  
られうかの

73 さればこそ人通けり浅茅原ねたしや今夜露

もこほれり

74 何ともなればなるゝものを兎やせう角や  
せう鳴呼たゝゝ

75 浪の立つは風ゆへの憂名の立つは君故よの  
76 変る人よりも頼むまじきは我が心よの幾度  
か思ひすてゝ又変るらう

77 いとしががの積り来て更に寝られぬ  
78 何をおしやるも籠で候故ほどになふ漏るほ  
どに

79 思ひ候もの北野、松の葉の数  
80 月夜には成候まじ暗にさへしのゝ忍ばれ  
ぬ物をまして月の夜には忍ばれ候まじ

81 憂き人を尺八に彫り込めて時ゝ吹かばや  
恋の葉に

82 身は撥つるべよ水に浮かるゝ  
83 立つ名ばかりよゝあはで消え候

84 鶯は音をいだすに細るゝわれらは忍び夫  
を待つに細る

85 いとゝ名の立つ折節になんぞそなたのお目  
もとは

86 末のまつ山波は越すとも忘れ候まじゝ  
87 いとゝさへ物思ふ袖の露けきに涙な添へそ  
山鴈

88 さのみ人をも恨むまじ我心さへ従はぬうき  
世なるもの

89 言へば世にふる遺瀬もな

90 ならぬ物ゆへになるゝと云はれとも  
なやの

91 よしさらば此まゝにても遠去かれ逢はゝ別  
れの又や憂からむ

92 死にだにせずはたゝ踏お殺しやれの  
93 只けふよなふ明日をも知らぬ身なれば

94 あなたのこなたのそなたのこちのあらうつ  
ゝなや柴踏におし寄せてうつゝなの衆

95 ともすればふられ候身はさて棒か茶箋か  
96 あちき花のもとに君としつとゝ手枕入て月  
を眺みよな思ひはあらじ

97 君を待つ夜は海人の篝火明し難やなふ明し  
兼ねたよ今宵を

98 色が黒くば晒しませもとよりもしほ焼の子  
ぢやもの

99 そと見てさへ恋となるにさてのものしては  
の

100 武蔵野にこそ限りあれ身には思ひもはても  
なや

101 切りたけれどもいや切られぬは月かくす花  
の枝恋の道

102 誰かつくりし恋の道いかなる人も踏み迷ふ  
つゝまれもせず

103 つゝむとおしやるも皆いつはり真實思へば  
つゝまれもせず

104 目もとに迷ふに弓矢八幡つんとすぐれたほ  
ろり迷ふた

105 お寝れ首もせでお寝れ鳥は月に鳴き候よ  
106 恨みはかずゝ多けれど逢ふたうれしさに  
はたと忘れた

107 いやと思へど又見れば思ひ切りしがいつは  
りとなる

108 一夜来ねばとて咎もなき枕をたてな投げに  
よこなゝげになよな枕うなよ枕

109 恋する人は藻にすむ虫よわれから濡るゝ憂  
き袂

110 わが恋は遂げうずやらうゝあがれゝあ  
んがれあがらしめんう石神

111 俺と和御料はよい中ながらいかな化物が中  
言入て富士の白雪まだとけぬ

112 鞆に着せうとてめづくしの小袖に京かみし  
もをゝ

113 磯には住まじさなきだに見る目に恋のまさ  
るに

114 ひとつ聞し召せたふゝと夜のお伽にお伽  
にや身が参らうゝ

115 俺は小鼓とのは調めよ皮をへだてゝねにお  
りやあるゝねねにおりやる

116 御所折りの烏帽子をのけつためつ腰で反い  
たそれを召す人は讀岐侍ゝ

117 いかかな山にも霧は立つ御身いとしにはきりが  
ない／＼なふきりが  
ない

118 宇治の川瀬の水車何とうき世をめぐるらん  
114 思ふ方へこそ目もゆけ顔も振らるれ

120 宵のお約束晩の脅しだてこれやなに事  
121 庭のちりにて酒を暖めてよの紅葉の色にい  
ざならん

122 ひよめけよの／＼くすんでも瓢箪から馬を  
出す身かの／＼

123 とりよりやいとし手繰りよりやいとし糸よ  
り細い腰縮むればいと／＼なをいとし

124 な乱れそよの糸薄よのいと／＼心の乱るゝに  
125 京のつば笠形よや着よや緒よや締めよや

126 ちたい都は笠だに着よや緒よや締めよや  
127 何とさいたる戸やらんゑいおせども開かぬ

は切窓の戸  
128 鶏は君戻れとは鳴かねども君こそ房れとり

に咎なや  
129 夏の夜の長さ秋の夜の短かさよるよの人  
によるものを

130 忍ぶその夜の短かさよ継ぐものならば十夜  
を一夜に

131 まれに近江の鏡山とても立つ名に曇れ君  
132 人の小娘と矢の竹はためつ調めつ見たばか

133 待てとはそなたの空情心よいや待つまじや  
あゝまつまじ

134 十七八ははや川の鮎候寄せて／＼せきよせ  
て探らいなふお手で探らいなふ

135 十七八の独り寝は仏になるとは申せどもな  
に佛なふ二人寝るこそ仏よ

136 わが思ふ人の心は淀川やしやんとして淀河  
や底の深さよ

137 おもふたを思ふたが思ふたかのおもはぬを  
思ふたが思ふたよの

138 いかかな類なき君さまなりと我思はずは思ひ  
切れ／＼いや切られぬ

139 けさの朝寝は朝寝ではなげに候よの過ぎし  
夜の名残げに候よの

140 十四になるほごちやとおしやる裏木戸を  
／＼開けて又待つがほこかの

141 しと聞におりやれ月にあらはれ名の立つに  
142 けふ立つあす立つあさて立つ森の巢鳥なふ

古菓を借しわ俺かな  
143 行脚の僧のかよふげな名さい波張の籠

144 笠がこれの門の脇の垣の鍵にかゝりととかゝ  
つたあらふしぎや

145 思はれ気色して暇乞うたればくれたよ乞う  
まいものを暇を

ものを後妻がなふしやらしや／＼とはく面  
の憎さよ

147 中／＼の空情捨てられてよい物  
148 人は兎も言へ角も言へいとうしかるもな何  
としよぞの

149 しつと締めてのいとうしさは加茂や春日野  
／＼野に伏す鹿の毛の数

150 北野／＼梅も吉野／＼花も散りこそしよずろ  
／＼あぢきなや

151 誰に馴るゝと我に知らすな聞けば腹たつた  
山顔にもみぢの見ゆるに

152 逢ふて戻る夜はなふ花が候もの逢はで戻る  
夜はなふ花も紅葉も見分けばこそ俺は石川の

にござねどもなふ人がにこりをなふ掛けうば  
何としまらせう

153 十七八はあさ川渡る我が妻ならうにやおい  
こやそ

154 我妻なくとまづ追こやせあの山蔭がない事  
か

155 あの山蔭にもし人あらば和御料に縁が／＼  
ないままでよ

156 とても立つ名に寝ておりやれ寝ずともあす  
は寝たと讃談しよ

157 雪の上ふる雨候よ添へば心の消え／＼  
と

158 そろり／＼と殿は引くとも浅葱小袴の髪は  
お大事

159 又見て候憂き人をうたゝねの夢に  
160 忍ぶまじ憂や辛や何しに思ひ初めつらう

161 わが心我に従ふものならばかほど苦しき恋  
は無用と意見せうずもの

162 あるは嫌なりなるも又嫌思ふはならずさて  
もよしなや

163 しやむとして唐崎や松のつれなき／＼  
164 繻子の袖細に伊勢編笠はめす気ぢやとのお  
めす気ぢやとの

165 そと隠れて走ってきたまづ放さいなふ放いて  
ものを言わさいなふ

166 浦が鳴るはなふ憂き人の舟かと思ふて走り  
でゝみたればいやよなふ波の打つうづ波の  
打つよの

167 一夜二夜とも言ははこそなよしせめて朝顔  
の花の露の間なりと

168 思ひは草の根かさて憂やな幾度きれど又萌  
え出づる

169 余所の梢のならひして松に時雨の又かゝる  
170 門に閨海老を下いた押へたとなふ／＼例の  
又りんき奴が押へたとの

171 しのを束ね突くがやうな雨による／＼濡れ  
て誰がおりやれとの

172 身は破れ車わが悪ければこそ捨てらるれ思  
ひまはせば心憂しやの

173 又湊へ舟が入やらう唐櫓の音がかりころ  
りと

174 米山薬師堂の釣鐘の緒にならふ／＼三度さ  
けられて振られて持まらうよ／＼

175 君待ちて待ちかねて定番鐘のその下でなふ  
ぢだ／＼ぢだ／＼を踏む

176 しつぽと濡れたる濡れ肌を／＼今に限らう  
かなふまづ放せ

177 おさな顔して鉄漿つけて笑うたが猶いと  
泣くは我涙のぬしはそなた

179 鳥はあはれを知らばこそ人のしわざの鐘ぞ  
物憂き

180 籠がな／＼籠もがな浮き名を漏らさぬ籠も  
がな

181 閨漏る月がちよほと射いたよなふあら憎の  
月やちよほとさいたよの

182 なをざりのほどこそはつかしのもりなばも  
りよ我泪

183 これより北の高き岡に琴を調べて夜もすが  
ら不思議やなふ恋には寝られざりけり

184 おもしろや多ん京には車やれ淀に舟げに桂  
の鶺鴒舟よの

185 人の捨つるに辛の我が身や思ひきれとよ思  
ひきられぬ

186 む中人なりやとて何しに寝肌の劣るべきか  
なふおやすみあれ富士の高嶺の寝物語するす  
るがおもしろ

187 中／＼の空情捨てられてよいもの

188 なか／＼に又篠々小笹よ一よ馴れても中  
／＼に

189 身がな／＼ひとつ都に夷中にも又  
190 とても消ゆべき露の玉の緒逢は惜しから  
じ

191 身は浮草の根も定まらぬ夫を待つ正躰あり  
明の月の傾く

192 身な焦がれそ縁さへあらば末はざりとも  
193 越後信濃にさら／＼とふる雪をしや押しと  
りまるめて打たばや悟気の人

194 俺は明年十四になる死に(か)せうずらうあ  
ぢきなや姉御へ申候姉(一期)の思出に姉御  
の殿御が所望なたゝ一夜二夜はやすけれど

奈良の釣鐘よそへの間が大事ぢやのたゝ  
195 十五にならばまめの壻を弱ふせよ今花ざか  
り手折られいでは無興ぢや

196 山となでしこ／＼失さうらにや／＼失さう  
らにや

197 つれなかしなかく／＼につれなかれかし

- 198 朱雀が川の千鳥が夜深に鳴いて目を覚ます  
 199 死なばやいや又死なじ逢こともあり  
 200 一花心そがな人ちやにそれやさうあらうず  
 そがな人ちや  
 201 物思ひよなふく中く情は物思ひよの  
 202 待てとはそなたの空情心よいや待つまじや  
 203 衣の移り香たふ添ふ心  
 204 辛き別をかへりみず又いつぞの  
 205 天にすまば比翼の鳥とならん地にあらば連  
 理の枝とならんあぢきなや  
 206 不審ならばかね打たうかねも無益や二心た  
 うふりで知るもの  
 207 五条わたりを車を通る誰そと夕顔の花車  
 208 八重花よもの言へ言多花よ言はで色に出で  
 んより言へ花よ  
 209 笑うたもよひがくすんだもよいよだうとり  
 まはせども憎いとは思はぬ  
 210 あのまつすぐな竹だにも雪にもしと伏す  
 ものをく  
 211 憂き人は劉文叔我は漢家の一客星多年捨て  
 られて一夜はものゝ数かの  
 212 社頭の橋を誰が架けつらう中を反らいて  
 213 見ぬさへあるにさて見てはの  
 214 よしや辛かれ中く人に人のよいほど身の仇

- よの  
 215 兎にも角にも笑止なる人ちや此手拍の二表  
 216 人は兎もいへ角もいへあ笑止と立つ名やの  
 217 春の名残は藤款冬人の名残は一言  
 218 忍ぶ細道いばらの木あ痛やなふ思ひし君に  
 は逢いたやの  
 219 恋の中川ふかと渡りて袖を濡らしたあら大  
 事なやこれも君ゆへ  
 220 若い時はいやくと言ふて年を寄らい  
 たうしないたりやなふ  
 221 黄金蔵とらうか器用のよひ殿とらうかいや  
 おりやよからう器用のよからう貧な殿を

語彙索引

〔あ〕

- あ  
 ああ  
 。あかしがた(明石潟) ↓ (懸 97)  
 あかしがた(明し難し)  
 あかしがた  
 あかしかぬ(明し兼ね)  
 あかしかぬ  
 。あかす(明) ↓ がた、一かぬ  
 あかつき  
 ↓「晝寺」  
 あがる(上)  
 あがら  
 あがれ  
 ↓「あんがれ」  
 あき(秋)  
 あく(開)  
 あか  
 あけ  
 あさかは(浅川)  
 あさがほ(朝顔)  
 あさぎ(浅葱)  
 あさぎり(朝霧)  
 あさちはら(浅茅原)  
 あさて(明後日)  
 あさね(朝寝)  
 。あし(足) ↓ もどりー  
 あした  
 あす  
 あた(仇)  
 あたたむ  
 あたゝめ  
 あちき  
 あちきなし  
 あちきな  
 49  
 150  
 194  
 205  
 96  
 121  
 214  
 156  
 9  
 139  
 139  
 142  
 73  
 29  
 158  
 167  
 153  
 140  
 127  
 129  
 110  
 <110> 110











かた (方) 119

。がた (瀉) ↓ (懸97)

。かたし (難) ↓ あかしー

かたぶく 191

かつら (桂)

かど (門)

↓ 「もん」

かな

かな

↓ もー

かなふ (叫)

かなは

。かぬ ↓ あかしー、まちー

かね (鐘)

↓ ちやうばんー、つりー

かね (鐵漿)

。かの ↓ 「か」「の」

かは (川・河)

↓ あさー、いしー、おとなしー、なかー

はやー、よどー、 (懸115)

かは (皮)

かはざうり (皮草履)

かはせ (川瀬)

かはる (変)

かへる (返)

かへら 119

かへる (帰)

かへりみる

かへりみ

かは (顔)

↓ をさな

かほど

かみ (神)

↓ いしー

。かみしも ↓ 京

かも (加茂)

かよふ (通)

かよひ

かよへ

から

↓ (懸14・夜) ↓

からさき (唐崎)

からす (鳥)

↓ すー、やもめー

からりころりと

からろ (空槽)

。かり (飯) ↓ (83 「はかりよ」の別解)

。かれ (枯) ↓ しも

かんか (漢家)

き 9 29 35

き (木)

き (助動)

き (気)

し

↓ 「し」 6 は別解 「し」

きく (聞)

きく

きく

きく

きく

きく

きく

きく

きく

きく

きく

きく

きく

きく

きく

きく

[き]

21 21 33 34 35 36 65 102 107 139 218

164 218

203

40

219

183

<65>

151

145

112

183

112

183

112

112

112

112

112

112

112

112

112

きやう(京)

きやうかみしも(京袴)

きゆ(消)

きえ

きゆ

きゆる

。きえくくく↓きえ(157)

きよう(器用)

。きよう(興) ↓ぶー

きよし(着良し)

きよ

きり(霧) ↓あさー、(懸117)

きり(限)

きりぎりす

きりまど(切窓)

きる(切)

きら

きり

きれ

↓おもひー

。着る↓きす、きよし、(懸63・ーた)

〔く〕

く(来)

こ

き

くる

↓つもりー

くさ(草)

↓うきー、わすれー、そうこん

くさまくら(草枕)

くす(蔑)

くすむ

くすり(薬)

くつ(沓)

くも(雲)

くもり

くもる

くもれ

。くゆ(悔) ↓(懸31・ーる)

くゆる(燻)

。くら(蔵) ↓こがねー

くるま(車) ↓はなー、みづー、やれー

くる(呉)

くれ

。くる(暮) ↓かきー、ゆきー

くるし(苦)

くるしき

4  
21  
53  
77  
108

。くれ(暮) ↓ゆふー

くろし(黒)

くろく

くわんのき(門)

〔け〕

け(毛)

げ

↓なー、なごりー

げうじ(晚寺)

げさ

げに

げふ

けむ

けり

けり

ける

こ(子)

。こ(期) ↓いちー、じんー

。ご(御) ↓あねー、とのー、一折

↓「お」「おん」

。こ(籠) ↓ふせー

こ(子)

こ(子)

46

98

170

98

143

149

11

11

139

184

142

93

31

183

73

59

59

98

98



さそふ(誘)

さそは

さだまる

さだまら

さつと

さつて

さつてむ

さながら

さなきだに

さぬきさふらひ(讀岐侍)

さのみ

さびし(寂)

さびしき

。さふらひ(侍) ↓ さぬき

。さふらふ(候) ↓ 「そろ」

さく

↓ 「さく」

さま\*

さま(様)

さます(醒)

さむ(醒)

さむる

さむれ

さむらひ

さむらひ

さむららと

さらす(晒)

さらし

さらた

↓ (懸57)

さらば

さりととも

されば

さんだん(讀談)

さんど(三度)

さんど

。し ↓ 「き」

じ

。じ(寺) ↓ 暁げ

しか(鹿)

しが(志賀)

しがらみ

しかる(叱)

しから

しぐる(時雨)

しぐれよ

しぐれ(時雨)

↓ 北

しげる(茂)

しげら

しげれ

しせき(咫尺)

した(下)

したかふ(従)

したがは

したがふ

したふ(慕)

しつと

しつと

しつと

しつもと

しづむ(沈)

しづま

して

しと

しと

しとと

しなの(信濃)

しぬ(死)

しな

しに

しの(篠)

しの(信田)

しのびづま

しのぶ(忍)

しのば

61

10

175

88

161

40

149

96

176

20

177

169

136

141

210

193

199

194

92

171

188

80

18

84

80

80

61





。ず (150 しょろ) ↓うず

すからす (巢鳥) 142

すぐ (過) せきとむ (塞き止む) 142

すぎ せきとむる 139

すぐる (勝) せきよす 104

すぐれ せきよせ 167

すぎく (朱雀) せめて 134

。すぎくがかは ↓「すぎく」「が」「かは」 せんかたなし 167

。すすぎ ↓いとー せんかたなし 23

すそ (裾) せんなし 52

すつ (捨) せんない 13

すて せんり (千里) 10

すつる 185

↓おもひー [そ]

すむ (住) そ 192

すま 。そ ↓「おひこやす」 5

すむ ぞ 1

。するが (駿河) ↓ (懸 186) 。そう (窓) ↓斜 1

すゑ そう (僧) 22

すゑのまつやま (末の松山) そうこん (草根) 55

そがな 148

[せ] そこ (底) 179

せ (瀬) 30

↓かはー 52

せうし (笑止) 69 215 216

そで (袖) 42 200

↓こー 136 200

そでぼそ (袖紐) 164

。そと (外) ↓「ほか」

そと 52

そなた 85

その 94

。ぞの ↓「ぞ」「の」 35 133 25

そふ (添) 130 178 99

そは 175 202 165

そふ 60

そへ 87

。そむ (初) ↓おもひー、ねー、ゆひー 157 203

そよく 51

そらす (反) 87

そらい 157

そらなさけ (空情) 147 116

そらなさげころ (空情心) 187 212

それ 4

そろ (候) 20

80 1

83 19

86 28

<86> 38

95 39

105 50

134 50

152 66

157 78

170 116

<170> 132

177 137

181 137

181 137

209 137

219 137

220 144

[た]

145 53

146 97

156 104

165 104

170 106

170 106

170 116

181 137

181 137

209 137

219 137

220 144



ちる(散)

ちり

ちる

〔つ〕

つ

。づ(出) ↓はしりー

つき(月)

つきよ(月夜)

つく(付)

つけ

。つく(突) ↓たばねー

。つく(尽) ↓6「告ぐ」の別解)

つぐ(告)

つぐ

つげ

つぐ(継)

つくる(作)

つくり

。つづみ(鼓) ↓小ー

つづむ(包)

つつま

つつむ

つね(常)

つひに(遂)

つぼかさ(壺笠)

つま(妻・夫)

↓しのびー

。つむ(積) ↓こりー

つもりく(積り来)

つもりき

つゆ(露)

つゆけし

つゆけき

つらし(面)

つらし(辛)

つら

つらき

つらがね(釣鐘)

。つるべ↓はねー

つれなかし

つれなさ

つれなし

つれなかれ

づんと

づんと

〔て〕

て(手)

て

153

154

191

125

52

62

73

167

190

77

146

87

174

194

214

36

204

160

185

163

<163>

197

104

197

134

52

134

62

65

66

76

77

81

94

96

99

111

115

121

134

134

134

134

134

134

134

134

134

134

134

134

134

175

140

145

149

152

156

159

163

163

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

175

140

145

149

152

156

159

163

163

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

175

140

145

149

152

156

159

163

163

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

175

140

145

149

152

156

159

163

163

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165

165



ながむ(眺)

ながみよ(う)

ながら

なく(鳴)

なか

なき

ない

なく

なく(泣)

なく(投)

なげ

なげ(形動)

なごり

なごりげ

なきげ(情)

↓そらー、そらーごころ

なし

な

なく

なし

なき

ない

なけれ

↓うつつな、せんかたな、だいじな

なつ(夏)

。なでしこ↓やまとー

など

なに(何)

↓「な(何)」「なんぞ(何)」「

なにごと

なにしに

。なにととも↓「なに」「と」「も」

。なふ↓「なう」

なほ

なほざり

なみ(波)

↓浦ー

なみだ

なよな

なら(奈良)

ならはし(習)

ならひ(習)

ならふ

ならは

なり(形)

なり

なら

なり

なる

なれ

なりはつ

なりはて

なる(鳴)

なら

なる

なる(價)

なれ

なる、

なる(成)

なら

なり

なる

なれ

。なる、↓なる(90)

なんぞ

〔に〕

。に(荷) ↓おもー

に

3

4

5

11

13

19

20

20

27

28

28

28

30

31

32

36

40

7

93

16

50

166

50

151

188

151

188

151

188

151

188

151

188

151

188

151

188

151

188

151

188

151

188

151

188

151

193  
194  
194  
195  
198  
200  
205  
205  
208  
213

(一て) 91  
121

(一は) 4  
55  
62  
72  
80  
80  
100  
113  
117

(一も) 48  
117  
189  
117

(一や) 41  
61  
114  
153  
189  
117

(中く) 39  
188  
196  
210  
183

↓きらー、つひー、まれー  
197  
196  
215  
184

にくき(憎) 146

にくし ぬれ  
ぬれぎぬ  
ぬれはだ

にくく ぬるゝ

にくい ぬれ

にじり(濁) 152

にじる 209

にごら 181

には(庭) ぬれ

にはと(鶏) ぬれ

にほひ ぬれ

。にや(二夜) ↓「ふたよ」

↓(懸115)、↓「ねね」

ぬ(助動)

な(一ば)

ぬし(主)

ぬらす(濡)

ぬらし

ぬる(濡)

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

ぬれ

[ね]

ね(音)

ね(根)

↓草根

。ね(嶺) ↓たか

ねそむ(寝初)

ねそめ

ねたし(妬)

ねね

ねはだ(寝肌)

ねものがたり(寝物語)

ねや(闇)

。ねん(年) ↓たー、みゃうー

[の]

の(野)

↓かすがー、きたー、さがー、むさしー

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の





|             |           |                      |             |
|-------------|-----------|----------------------|-------------|
| ひと(人)       | 5         | ふかと                  | 219         |
| ↓ むなか       | 8         | ふき(款冬)               | 217         |
| ひとこと(一言)    | 13        | ぶきやう(無興)             | 195         |
| ひとこゑ(一聲)    | 26        | ふく(吹)                | ふみ          |
| ひとつ         | 31        | ふか                   | ふむ          |
| ひとはなごころ     | 34        | ふか                   | ふみまよふ(踏み迷ふ) |
| ひとよ(一夜)     | 35        | ふし(節) ↓おり            | ふり(振)       |
| ↓「いちや」      | 36        | ふじ(富士)               | ふる(振)       |
| ひとり         | 37        | ふしぎ                  | ふら          |
| ↓(懸31・火取り)  | 41        | ふしみ(伏見)              | ふる(降)       |
| ひとりね        | 46        | ふしん(不審)              | ふるす(古巣)     |
| ひよく(比翼)     | 53        | ふす(伏)                | へ(上)        |
| ひよめく        | 63        | ↓(懸32)               | へ(上)        |
| ひんな(貧)      | 73        | ふせご(伏籠)              | へうたん(瓢箪)    |
| 「ふ」         | 88        | ふたおもて                | べし          |
| 。ふ↓「う」(174) | 122       | ふたごころ                | べし          |
| ふ(経)        | 221 <122> | ふたよ(二夜)              | へだつ(隔)      |
| ふる          | 221 <122> | ふたり                  | へだて         |
| ふうう(風雨)     | 136       | ふたりね                 | へだて         |
| ふかき(深)      | 38        | ふち(淵)                | へだて         |
| 。ふかし↓よー     | 89        | ふぢ(藤)                | へだて         |
|             |           | ふね(舟)                | へだて         |
|             |           | ↓うかひ、うき、しば           | へだて         |
|             |           | ふはのせき(不破の関)          | へだて         |
|             |           | 。ふみおころす↓「ふむ」「お」「ころす」 | へだて         |
|             |           | ふむ(踏)                | へだて         |
|             |           | ふむ(踏)                | へだて         |
|             |           | 。ほ↓かき                | へだて         |
|             |           | ほう(棒)                | へだて         |
|             |           | ほか(外)                | へだて         |
|             |           | ほこ                   | へだて         |
|             |           | 。ほし(星) ↓「客」          | へだて         |

ほそし(細)

ほそい

↓ 袖ほそ

ほそみち

ほそる

ほたる(螢)

ほど

↓ かー

ほとけ(仏)

。ほととぎす→やまー

ほろほろ

ほろり

[ま]

ま(間)

まい

まうす(申)

まうし

まうせ

まかす(任)

まかせ

まくら

↓ くさー、たー

まさる(勝)

まし

まし

まじぎ

まして

ます

ませ

ませがき(籬垣)

また(又)

↓ (199は「まだ」別解)

まだ

ましかぬ(待ち兼ね)

ましかね

まつ(待)

また

まち

まつ

↓ (懸 14・163・169)

まつ(松)

まづ(先)

まっすぐな(真直)

まつやま(松山)

↓ すゑのー

まで

。まど(窓) ↓ きりー、斜

まじ

まじぎ

まして

ます

ませ

ませがき

また

まだ

ましかぬ

ましかね

まつ

また

まち

まつ

まづ

まっすぐな

まつやま

まで

39

80

80

86

<86>

88

133

133

160

202

202

76

202

53

84

97

133

133

140

191

202

175

。まはす(廻)

まゝ

まめ

まよふ(迷)

↓ ふみー

まらす

まらせ

まるむ(丸)

まるめ

まれに(稀)

まゐる

まゐら

[み]

み(身)

みじかさ(短かさ)

↓ (懸 131)

みす(見)

みせ

。みたび(三度) ↓ さんど

みだる(乱)

みだれ

みだるゝ

みち(道)

100

16

114

16

<114>

117

16

122

23

<122>

24

172

39

185

59

189

64

<189>

66

191

82

<189>

66

101

124

124

5

27

129

130

114

<114>

131

193

152

8

104

104

195

91

↓ ほそー  
む  
も (藻)  
109

みづ (水) 69 70 82  
↓ 「う」、「ろ」、「そ」、「しよ」

みづぐるま 118  
。むく↓きぬぎぬ (衣く)

みな (皆) 103  
。むぐら↓やへー

みなと 173  
むこ (蟹)

みゃうねん (明年) 194  
むさしの (武蔵野)

みやげ 146  
むし (虫)

みやこ 49 49 126 189  
。むず↓「うず」

みゆ (見) 65  
。むすめ↓こー

みえ 65  
むつかし

みゆる 151  
むつかしく

みよしの 67 68  
むめ (梅)

↓ 「よしの」 29 213  
むやく (無益)

みる (見) 5 36 68 99 132 159 166 213  
むよう (無用)

み 113  
め (目)

みる 107  
。め (奴) ↓りんきー

みれ 118  
めぐる

↓ せ、(懸 6 浦一、 18・22 裏一、 32 伏一、 67 花を一)

。みるめ (海松) ↓ (懸 113)

みわく (見分く) 152  
めす (召)

みわけ 185 104 112  
↓ こしー

めもと (目元) 85 104 112  
もどる (戻)

めづくし 116 164 164 118  
もどる (戻)

めもと (目元) 112  
もどる

もの (物) 130 13 147 23 152 33 161 44 161 59 165 60 187 69 206 79 208 87 211 88 90 128 152 98 128 152

↓ ばけー、ーを



ゆひそむ(結び初む)

ゆひそめ

ゆふがほ(夕顔)

ゆふぐれ(夕暮)

ゆみやちま(弓矢八幡)

ゆめ(夢)

ゆめうつつ

↓「うつつ」

ゆゑ

よこな(横な)

よし(良)

よ

よい

よかろ

↓きよし、しめよし

よし(縦し)

よしなし

よしなし

よしの

↓みー

よしや(縦しや)

よす(寄)

よせ

↓おしー、せきー

よそ

よど(淀)

よどかは(淀川)

よねやまやくしだう(米山薬師堂)

○よの↓「よ」「の」

よのなか

よひ(宵)

↓こー

よぶか(夜深)

76  
121  
122  
124  
124  
129  
137  
139  
139  
166  
181  
184  
201  
214

108

58  
125  
125  
126

71  
111  
147  
187  
209  
209  
214  
221

221  
221

221  
221

91  
167

よる

よるく(夜く)

よろづよ(万世)

よわし(弱)

よはふ

214

134  
<134>

169  
194

らう

↓「らむ」

らむ・らん

らる

↓「らう」

らる

らる

らる

らる

よも

よもすがら

より

よる(夜)

↓「よ、(懸13・14・129)

よる(寄)

よら

よる

よる

よる

よはふ

よはふ

ら

らう

らう

らう

らう

らう

らう

らう

らう

らう

らう

らう

17  
76  
123  
183  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

114  
208  
183  
4

り  
わかき (若狭) 73  
わかし (若) 211  
わかい  
わかさ (若狭) 73  
わろけれ 172

り (里) ↓せんー  
りうぶんしゆく (劉文叔) 211  
りんぎ (愷氣) 193  
りんぎめ (愷氣奴) 170

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

る  
わかれ (別) 40  
わかれ (別) 58  
わかれ (別) 91  
わかれ (別) 144  
わかれ (別) 204  
わかれ (別) 55  
わかれ (別) 146

↓「ものを」

をか(岡)

をかむ(拜)

おがま

をざさ(小笹)

。をし(鴛鴦) ↓多んあう

をし(惜)

おしから

をしむ(惜)

をさながは(幼な顔)

。ん↓「む」

〔付録〕

|     |     |     |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|-----|-----|-----|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 168 | 109 | 68  | 3 | 4 | 5 | 6  | 12 | 15 | 16 | 20 | 25 | 28 | 31 | 37 | 48 | 51 | 57 | 63 |
| 175 | 115 | 74  | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 188 | 121 | 76  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 190 | 123 | 76  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 188 | 124 | 79  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 194 | 124 | 82  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 194 | 133 | 85  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 203 | 144 | 87  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 206 | 149 | 92  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 210 | 150 | 94  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 211 | 150 | 94  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
|     | 151 | 96  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
|     | 159 | 97  | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
|     | 166 | 103 | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
|     | 166 | 103 | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |
|     | 167 | 108 | 7 | 6 | 5 | 4  | 3  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |

〔補註〕

いちこ(194) P 80

174  
188<174>

本文では「あね」と作り、その右傍に「二期」と併記してある。

うず(150) P 81

「しよずる」は「せ(為の未然形)」と「むず」が「せむず↓せうず↓しよず」と変化したものに、

「らむ↓らう↓ろ」が付いたものと考えられる。

よって「ず」は「うず」の項を本見出しに、「ず」を参照見出しにたてた。

か(194) P 83

本文「しにせうずらう」の「せ」右傍に「か」と併記してある。

かごかさ(134 144) P 83

143 144番をあわせて一歌謡とする北川説による。しかし見出し語としては「かご」「かさ」と別にして、「かごがき」は延べ語数に人らぬように括弧でくくった。

きぬぎぬ(40) P 84

常磐松本「衣」の↑笹野本翻刻「むくの」これは明らかに「衣」の読み誤りと考えられる。

こぼる(氷)(73) P 86

従来「こぼる(霽)」と読んでいるが、「り」の接続方法から、「氷」とするのが妥当かと思われる。

さま(138) P 87

本文「さ」と読むことに疑があるが、一往従来の読みによる。

に(155) P 94

おどり字は一往「えんが」のくり返しとするが「むこれうに」も付けて別解とする。

(よ)の(121) P 95

『室町時代小歌集』では「世の紅葉」とするが、これを「よの」と解する北川説をとり、「世の」は別解として掲げた。

は(47) P 95

本文「は」の読みに疑があるが、一往従来の読みによる。

むく(40) P 98

「きぬぎぬ」解説に同じ。

ものを(59) P 99

本文「を」の左傍にミセケチ有り。

ものを(146) P 99

本文では「もの」を作り、その右傍に「を」と併記してある。

〔常磐松文庫蔵本との校異〕

|        |      |        |         |        |         |     |      |
|--------|------|--------|---------|--------|---------|-----|------|
| 48     | 42   | 40     | 34      | 18     | 2       | 番号  |      |
| 波の底    | 雲のはて | 別をしたふ涙 | ならはさるらう | しのだの森の | かみむつかしく | 笹野本 | 常磐松本 |
| かゝる所にも | 浪のはて | 別を慕ハ泪  | ならはさるらむ | しのだの森の | 神も六借と   |     |      |
|        | 雲の上  |        |         |        |         |     |      |
|        | 浪のはて |        |         |        |         |     |      |
| かゝる飯にも |      |        |         |        |         |     |      |

漢字索引

淵 垣 越 雲 鳥 雨 宇 蔭 一 意 衣 夷 暗 鳴

↓  
〔墻〕

〔え〕

〔う〕

〔い〕

〔あ〕

9  
28  
108  
167  
188  
194  
194  
211

20 26 144 193 42 105 171 64 154 217 161 63 189 80 74

肝 葛 角 外 會 賀 我 霞 夏 河 花 何 火 音 鶯 鶯 鴛 綠 猿

↓  
〔川〕

〔か〕

〔お〕

150 46  
152 67  
167 67  
195 68  
208 68 74  
208 96 78

65 22 35 216 17 55 71 14 182 8 129 136 101 118 97 84 84 54 54 192 146

螢 閨 君 空 玉 鏡 興 曉 蛩 京 御 弓 脚 器 崎 期 其 顔 款

〔け〕

〔く〕

〔き〕

20  
71  
75  
96  
97  
128  
128  
138  
175  
218

11  
52

69 181 219 133 190 131 195 120 22 112 116 125 117 104 143 221 14 194 35 177 207 217

恨 今 候 香 岡 更 行 後 吾 五 鼓 袴 枯 故 呼 戸 原 言 鶻 見 月 鷄

〔こ〕

11  
65 96 28  
68 101 32  
113 105 38  
132 141 52  
152 181 53  
159 181 80  
161 191 80 128

15 86 32 62 195 127  
21 152 115 52 22 75 74 127  
22 73 194 203 183 57 143 193 69 207 115 52 22 75 74 127





鳥虫 中竹治地 大躰 藏霜僧湊窓草 篋 川千

〔ち〕

〔た〕

〔そ〕

〔河〕

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|----|-----|----|-----|-----|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ↓   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 1   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 186 | 6   | 50  |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 187 | 12  | 118 |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 188 | 26  | 134 |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 189 | 36  | 136 | 1   |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 201 | 39  | 45  | 152 | 9   |     |     |     |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 212 | 111 | 26  | 153 | 10  |     |     |     |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 179 | 214 | 111 | 132 | 158 | 168 | 198 | 10  |     |     |    |     |     |    |     |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 198 | 109 | 219 | 147 | 210 | 64  | 205 | 219 | 191 | 100 | 22 | 143 | 173 | 11 | 191 | 95 | 219 | 198 |

藤頭路 谷冬度菟都 淀天程啼庭底定 通追 枕朝

〔と〕

〔て〕

〔つ〕

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |     |     |    |    |     |     |    |    |     |     |     |    |    |     |    |    |    |    |    |     |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|-----|----|----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 40  |     |    |    |     |     |    |    |     |     |     |    |    |     |    |    |    |    |    |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 96  |     |    |    |     |     |    |    |     |     |     |    |    |     |    |    |    |    |    |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 108 | 139 |    |    |     |     |    |    |     |     |     |    |    |     |    |    |    |    |    |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 217 | 212 | 92 | 43 | 217 | 168 | 35 | 49 | 126 | 136 | 205 | 41 | 22 | 121 | 42 | 71 | 55 | 23 | 73 | 154 |

萬幡八薄拍梅馬波 濃 年 忍入二 曇獨道堂

〔は〕

〔の〕

〔ね〕

〔に〕

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |    |     |     |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|----|----|-----|-----|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 48  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 81  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 104 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 134 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 135 | 14  |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |    |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 32  | 153 | 3   | 42  | 11  | 167 | 31  |     |     |     |    |     |     |    |    |     |     |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 1   | 104 | 208 | 124 | 215 | 150 | 122 | 166 | 193 | 194 | 80 | 173 | 215 | 63 | 59 | 218 | 174 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 96  | 194 | 57  | 206 | 111 | 206 | 198 |     |     |     |    |     |     |    |    |     |     |

忘逢暮浦 別袴 物佛仏風武富浮不 貧表

〔ほ〕

〔へ〕

〔ふ〕

〔ひ〕

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |     |     |    |     |     |     |     |    |     |     |    |     |     |    |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|----|-----|-----|----|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 87  | 23  |    |     |     |     |     |    |     |     |    |     |     |    |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 90  | 33  |    |     |     |     |     |    |     |     |    |     |     |    |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 111 | 44  |    |     |     |     |     |    |     |     |    |     |     |    |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 147 | 59  |    |     |     |     |     |    |     |     |    |     |     |    |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 201 | 59  |    |     |     |     |     |    |     |     |    |     |     |    |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 201 | 69  |    |     |     |     |     |    |     |     |    |     |     |    |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 45  | 27  | 13 | 40  | 80  | 135 | 135 | 38 | 100 | 186 | 66 | 206 | 221 | 21 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 86  | 199 | 32 | 166 | 204 | 109 |     |    |     |     |    |     |     |    |

野 夜 門 毛 茂 明 名 霧 夢 無 末 木 北 望

〔や〕

〔も〕

〔め〕

〔む〕

〔ま〕

|     |     |     |            |     |     |  |    |         |  |    |  |  |  |             |
|-----|-----|-----|------------|-----|-----|--|----|---------|--|----|--|--|--|-------------|
| 167 | 9   |     |            | 7   |     |  |    |         |  |    |  |  |  |             |
|     |     |     |            | 35  |     |  |    |         |  |    |  |  |  |             |
|     |     |     |            | 42  |     |  |    |         |  |    |  |  |  |             |
|     |     |     |            | 45  |     |  |    |         |  |    |  |  |  |             |
| 167 | 9   |     |            | 83  |     |  |    |         |  |    |  |  |  |             |
| 194 | 73  |     |            | 85  |     |  | 4  |         |  |    |  |  |  |             |
| 28  | 194 | 80  |            | 131 |     |  | 5  |         |  |    |  |  |  |             |
| 79  | 198 | 97  |            | 93  | 180 |  | 27 |         |  |    |  |  |  | 32          |
| 100 | 211 | 108 |            | 191 | 217 |  | 8  | 27      |  |    |  |  |  | 61 79       |
| 149 | 130 |     | 144 149 61 | 194 | 217 |  | 29 | 159 195 |  | 86 |  |  |  | 218 183 194 |

笠 蕨 離 理 里 嵐 瀬 来 腰 葉 用 歟 憂 猶 又 菓

〔り〕

〔ら〕

〔よ〕

〔ゆ〕

|     |    |    |     |    |    |        |  |              |  |    |     |         |  |     |
|-----|----|----|-----|----|----|--------|--|--------------|--|----|-----|---------|--|-----|
|     |    |    |     |    |    |        |  |              |  |    |     | 162 30  |  |     |
|     |    |    |     |    |    |        |  |              |  |    |     | 168 36  |  |     |
|     |    |    |     |    |    |        |  |              |  |    |     | 169 47  |  |     |
|     |    |    |     |    |    |        |  |              |  |    |     | 170 65  |  |     |
|     |    |    |     |    |    |        |  |              |  |    |     | 173 76  |  |     |
|     |    |    |     |    |    |        |  |              |  |    |     | 188 91  |  |     |
|     |    |    |     |    |    |        |  |              |  |    |     | 189 107 |  |     |
|     |    |    |     |    |    |        |  |              |  |    |     | 199 140 |  | 81  |
| 126 |    | 55 |     | 10 |    | 4      |  |              |  |    |     | 199 140 |  | 81  |
| 164 | 48 | 71 | 205 | 10 | 51 | 118 38 |  | 116 57 221 8 |  | 75 | 177 | 204 159 |  | 174 |

ら 謝意を述べる。 氏に学恩を賜わった。 末尾なが 既に掲げた各氏の他、新聞進一 氏並びに中世歌謡研究会會員諸 追記 鹿 浪 露 路 連 恋 例 涙 泪

〔ろ〕

〔れ〕

〔る〕

|    |    |     |    |  |  |  |  |        |  |        |  |  |  |        |
|----|----|-----|----|--|--|--|--|--------|--|--------|--|--|--|--------|
|    |    |     |    |  |  |  |  | 81 2   |  |        |  |  |  |        |
|    |    |     |    |  |  |  |  | 99 5   |  |        |  |  |  |        |
|    |    |     |    |  |  |  |  | 102 20 |  |        |  |  |  |        |
|    |    |     |    |  |  |  |  | 109 26 |  |        |  |  |  |        |
|    |    |     |    |  |  |  |  | 113 37 |  |        |  |  |  |        |
|    |    |     |    |  |  |  |  | 161 37 |  |        |  |  |  |        |
|    |    |     |    |  |  |  |  | 219 69 |  |        |  |  |  |        |
|    |    |     |    |  |  |  |  |        |  |        |  |  |  | 17 30  |
| 28 | 75 | 190 | 32 |  |  |  |  | 205    |  | 70 170 |  |  |  | 87 182 |